

庚申堂について



ここの庚申堂の御本尊青面金剛童子は行基菩薩観音の作と伝えられています。男川の淵の猿堂淵猿岩と呼ばれていた岩の上の厨子に安置されていたものを慶長年間(江戸時代初期)に、ここに堂を建てて移したといわれます。青面金剛童子は、インドの神にて靈感あたたかな神と言われています。青面金剛童子を庚申様と称するのは、日本に伝えられのが庚申の日であったからと伝えられています。庚申様のおまつりは、江戸時代以降に盛んになりました。ちなみに、この庚申堂は江戸時代の末、渥美の歌人糟谷磯丸公羽が、一時住んでいました。ここを足場にしてあちらこちらで病氣平癒や虫封じの歌等を詠んだそうです。

毘沙門天について



国指定重要文化財で毘沙門天は北方の守護神。多聞天の別称が毘沙門天です平安時代前期の作例として貴重。



庚申堂の中